

5. 成果の公表

発掘調査の成果を現地で公表する現地説明会を、調査終了後には成果報告会を実施しています。

平成 21 年度からは、埋文センター第 2 展示室で「讃岐国府跡を探る」と題し、前年度までの調査成果などを展示しています。この展示は讃岐国分寺跡資料館など県内各地を巡回し、多くの地域の方々にもご覧いただきました。

これまでの発掘調査の成果は、報告書にまとめられ、県内各地の図書館などに送付しています。



現地説明会(平成24年度)



第2展示室「讃岐国府跡を探る」

6. 平成 30 年度以降の発掘調査

今後、平成 32 年度まで国府の広がりや構造の把握を目的にした発掘調査を予定しています。平成 30 年度の調査では、開法寺池の南側で平安時代初め頃の溝や平安時代終わり頃の柱穴が見つかり、讃岐国府や開法寺に関連する施設が開法寺池の方へ広がる可能性が高くなりました。



検出した柱穴
(平安時代終わり頃)

*展示のおしらせ テーマ展「讃岐国府跡を探る 10」

日時：平成 31 年 1 月 4 日(金)～5 月 14 日(火)

9 時～17 時 ※土・日・祝は休館

場所：香川県埋蔵文化財センター第 2 展示室

観覧料：無料



香川県埋蔵文化財センター

<http://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/>

〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4

tel. 0877-48-2191 fax.0877-48-3249



一部通行止があります
詳しくはホームページをご覧ください



現地説明会を開催しました

2 月 10 日(日)に、讃岐国府跡調査事業に係る発掘調査の現地説明会を、開法寺跡調査の現地説明会(坂出市教育委員会主催)とともに開催しました。2 月にしては穏やかな気候の中、午前・午後 2 回の実施で合計 266 名の方が参加しました。

● 讃岐国府跡に係る調査は

10 年目を迎えました

讃岐

いにしえの

讃岐国府跡に係る調査は 10年目を迎えました

香川県埋蔵文化財センターでは、文化財を活用した地域の活性化を目指して、平成21年度から讃岐国府跡に係る調査を実施しています。県民と共働するために、県民の方々からボランティア調査員（通称ミステリーハンター）を募り、発掘調査だけでなく地名・地形調査などを含む総合的な調査を進めてきました（平成29年の総合的な調査の終了とともにミステリーハンターは解散。その後まいぶんボランティアに引き継がれる）。

調査の結果、約250年間継続する、企画的に配置された格式の高い大型建物群が存在する一画（開法寺東方地区）が明らかとなり、讃岐国府がこの地にあったことが確定となりました。

讃岐国府跡に係る調査は平成30年度で10年目を迎えました。これまでの讃岐国府跡の調査事業の歩みを振り返ります。

1. 地名・地形調査

発掘調査地の選定に役立てるため、地名・地形調査を実施しました。

地名調査では、地元の方々から小地名の聞き取り調査、坂出市府中出張所に残る、江戸時代後期～明治時代の検地帳の調査を実施しました。その後、調査の範囲を広げ、市内の加茂町、林田町の地名調査を実施しました。



機械を使って標高をはかる



検地帳と現代の地図の照合作業

地形調査では、綾川下流域の地形の細かい起伏を明らかにするため、水田一筆ごとの標高の測量、水田の給排水状況と広域の水利状況などの調査、検地帳に記載される地目（土地の用途を示す）や地位等級（土地条件の良しあしを示す）の分析を行いました。

2. 発掘調査

発掘調査は、土地の地権者の方々のご協力を得て、毎年度後半の稲作を終えた時期に実施しました。

平成21年度は鼓岡神社の北側の微高地上で鎌倉時代の遺構群、平成22年度は平安時代の道路に関わる可能性のある遺構群を検出しました。道路は国府と港を結ぶためのものと考えられます。

平成23年度には開法寺跡の東側で調査を行いました。7世紀後半の大型掘立柱建物が見つかり、古代初期の何らかの公的施設が想定され、今後のこの地域の調査に期待が寄せられました。



大型建物群

平成24年度は、改めてこの3年の調査結果と過去の断片的な調査歴を検討し、瓦の出土量が多く、平成23年度に大型掘立柱建物が検出された開法寺の東側で調査を実施しました。



一本柱塙(人の右側に柱穴が並ぶ)した。

その結果、格式の高い官衙の区画施設に設置される瓦葺の一本柱塙が見つかり、付近に讃岐国府跡の主要な施設があることが明らかとなりました。この成果は新聞でも発表され、多くの方々にご覧いただきました。以後30年度までこの「開法寺東方地区」の調査を重点的に実施し、江戸時代後期以降考証の行われてきた国府の所在地が、この「開法寺東方地区」を含む坂出市府中町内で間違いのないことを確認することができ

3. 古墳の測量調査

国府が設置される直前の坂出市府中町周辺地域の政治的な情勢を明らかにするため、6世紀末～7世紀前半の地域の有力者の古墳である綾織塚古墳、新宮古墳の測量調査を行いました。



新宮古墳の測量調査

調査の結果、墳形はともに方墳であり、2基ともに墳丘規模は1辺20～21m程度、横穴式石室には巨大な石材を用い、全長約12～13mで玄門立柱を備えることがわかりました。過去に調査が終了している醍醐3号墳と合わせ、国府周辺に密集する巨石墳は、なぜこの地が国府の場所として選ばれたのかを考える貴重な手がかりとなります。

4. ミステリーハンターの活動

地名・地形調査では、多くのミステリーハンターが小地名の聞き取り調査や水田の標高の測量、水田の給排水状況の調査、検地帳の解読などに大活躍をしました。

発掘調査は、多くの人が「発掘作業は初体験！」だったようですが、埋文センター担当職員の指示のもと注意深く作業に当たり貴重な成果につながりました。

ハンター独自の活動として活動当初より南海道の調査に取り組みました。南海道推定地を踏破し、地図と照合しながら南海道のルートを復元し、平成29年度には冊子「南海道を歩く」を刊行しました。

また平成28年度には、鼓岡神社境内にある、国府関係資料や地域の文化財を多く収蔵する鼓岡文庫の収蔵品の調査を行いました。

調査と並行して、讃岐国府跡およびその周辺遺跡のガイドも積極的に行っています。地元府中町の行事、県内外からのグループからの依頼で、活動を通して身に付けた多くの知識や、実際に経験した発掘調査の様子などをわかりやすい語り口で説明し、参加者にもとても好評です。

平成26年度には、「てくてくさぬき」（わがかがわ観光推進協議会）でのガイドの成果を冊子にまとめ、刊行しました。



鼓岡文庫の調査



ミステリーハンターによる遺跡ガイド